

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- **豊かな将来を自ら切り拓く子どもの育成**
 — 「つながるよろこび」「まなぶよろこび」「やくだつよろこび」を実感できる、キャリア教育を基盤とした教育活動をすすめる—
- **安全安心で社会に開かれた魅力ある学校**

2 中期的目標

1. 小中高一貫した教育活動の充実

- (1) 現行の教育課程における課題の検証と改善案の作成（本校のめざす子ども像、「つきたい力」を指針として）
 ※カリキュラム・マネジメント PT 内「教育課程検討チーム」において、<R4：検証・改善案作成 R5：実施 R6：調整・定着を図る>
- (2) キャリア教育の充実
 ア 学部間交流授業の充実を図り、子どもの憧れや自己肯定感を育む。
 イ 子どもの主体性を育む「なんば祭」を実施する。<（R3：作品展との同時開催を検討済）R4：授業との関連について検証 R5：定着を図る>
 ウ 高等部職業自立コースの充実により、本人と保護者が望む進路先への決定をめざす。
- (3) 授業改善の仕組み構築
 ア チームティーチングの改善により、授業力の向上を図る。
 イ ICT 機器及び1人1台タブレット端末の活用による授業の充実をめざす。
- (4) 専門性の向上
 ア 「個別の指導計画検討会」の充実に努め、子どもの発達を支援する。
 イ 教育課程と自立活動に関する研修会を実施し、実践に活かす。
 ウ 経験の浅い教員への支援教育に関する研修等の充実をすすめる。

2. 安全安心で、魅力ある教育環境の整備

- (1) コロナウイルス感染症対策の継続
- (2) 防災教育及び情報モラル教育の充実
 ア 大規模災害に備え、柔軟で実効的な避難訓練や防災教育を実施する。
 イ 携帯電話やインターネット活用のリスクについて、外部講師等により子どもに応じた講習を実施する。
- (3) 人権教育の充実
 ア 人権教育研修会を実施する。（同和教育、LGBT、アンガーマネジメント等を検討）
 イ 管理職による「子どもの人権を尊重した子どもへのかかわり」に関する研修を実施する。
- (4) 子どものニーズに応える「豊かな情操を育む教育活動」の展開
 ア 企業の社会貢献事業「ゆめ水族園」の招致及び天象室の活用をすすめる。
 イ 校内における子どもの作品の常設展示をすすめる。

3. 保護者・地域・関係諸機関との連携

- (1) 保護者のニーズに沿った PTA 活動の充実
- (2) 近隣諸学校のニーズに応える地域支援の充実
- (3) 外部専門家や福祉等関係諸機関との有効で迅速な連携

4. 「いきいきと働ける」教職員のチーム力向上

- (1) 「45 分会議」の徹底、グループウェア活用による業務改善
- (2) デジタル教材の共有、活用
- (3) 教職員の業務分担状況の検証と改善

※（1）～（3）を通じ、ストレスチェックの総合健康リスク 102 以下をめざす。<※R1 111, R2 115, R3 109>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 小中高一貫した教育活動の充実	(1) 現行の教育課程における課題の検証と改善案の作成	(1) カリキュラム・マネジメントPT内「教育課程検討チーム」において、現行の教育課程における課題を検証し、改善した教育課程を再編成する。	(1) 教職員用学校教育自己診断アンケート「教育課程の編成にあたって、教育目標・めざす子ども像の実現に向けたものとなるよう検討、改善をすすめている。」項目の肯定的回答率 <u>75%以上</u> をめざす。[新規]	
	(2) キャリア教育の充実	(2) ア カリキュラム・マネジメントPT内「キャリア教育推進チーム」において学部間交流授業の充実を企画、検討する。時間割の中で実施可能な時間を確認し学部を渡るグループを設定、実施する。 イ 子どもの主体性を育成することを主軸とした「なんば祭」を計画、実施する。各学年において年度初めに内容を検討、指導計画書を作成、共有する。総合の時間等において年間を通じ取組む。 ウ 高等部職業自立コースのアセスメントの活用、校内や地域における実習の充実により働く意欲を育み、本人と保護者が望む進路先への決定をめざす。	(2) ア 学部間交流授業を全校で年間5回以上実施する。[R3 2回] イ 児童・生徒用学校教育自己診断アンケート「先生は、自分ががんばったことをみとめてくれる。」の肯定的回答率 <u>80%以上</u> めざす。[新規] ウ 当該コースの進路先に関する満足度について、年度末アンケートを実施する。満足度 <u>80%以上</u> をめざす。	
	(3) 授業改善の仕組み構築	(3) ア チームティーチングの改善により、授業力の向上を図る。「授業改善シート」を活用し、めあて・T2への依頼内容・感想と改善点を共有する。 イ ICT機器及び1人1台タブレット端末の活用による授業の充実をめざす。支援研究部及び文化情報部により情報発信と機器管理、必要に応じ活用の意義やスキルに関する研修会を実施する。	(3) ア 教職員用学校教育自己診断アンケート「教員の間で授業方法等について、検討する機会を持っている。」の項目を <u>90%以上</u> にする。[R3 84.0%] イ 児童・生徒用学校教育自己診断アンケート「授業でタブレットを使うことがある。」の肯定的回答率 <u>70%以上</u> をめざす。[新規]	
	(4) 専門性の向上	(4) ア 「個別の指導計画検討会」の充実に努め、子どもの発達を支援する。 イ 支援研究部により、研究テーマに関連した研修会を実施し、実践に活かす。 ウ 支援研究部を中心に、経験の浅い教員への支援教育に関する研修の充実をすすめる。	(4) ア 教職員用学校教育自己診断アンケート「アセスメント結果は、個別の指導計画に活かされている。」の項目について、「よくあてはまる」の回答率 <u>50%以上</u> をめざす。[R3 28%] イ 教職員用学校教育自己診断アンケート「ニーズに基づいた研修を計画し、一人ひとりの専門性を高めている。」の項目について、「よくあてはまる」の回答率 <u>40%以上</u> をめざす。[21%] ウ 支援教育に関する基本研修会を年間計 <u>3回以上</u> 実施、「支援研究部だより」を年5回以上発行する。	
2 安全安心で、魅力あふれる教育環境の整備	(1) コロナウィルス感染症対策の継続	(1) 引き続きコロナ対策委員会を開催し、感染防止対策とマニュアルの見直しを協議する。	(1) 月1回(状況に応じ、臨時にも)開催する。	
	(2) 防災教育と情報モラル教育の充実	(2) ア 大規模災害に備え、柔軟で実効的な避難訓練や防災教育を実施する。 イ 携帯電話やインターネットの活用リスクについて、外部講師等により子どもに応じた講習を実施する。	(2) ア 児童・生徒用学校教育自己診断アンケート「地震などが起こった時、どうしたらよいかを教えてください。」の肯定的回答率 <u>75%以上</u> を維持する。[R3 76.1%] イ 必要とする子どもに1回以上実施するとともに、日常的に担任と保護者で情報共有する。	
	(3) 人権教育の充実	(3) ア 人権教育研修会を実施する。(同和教育、LGBT、アンガーマネジメント等) イ 「子どもの人権尊重」に関する研修を実施する。	(3) ア 年間2回以上実施する。 イ 7月教頭の企画により実施する。 ※ア、イ共、事後アンケートを共有する。	
	(4) 子どものニーズに応える「豊かな情操を育む教育活動」の展開	(4) ア 企業の社会貢献事業「ゆめ水族園」の招致及び天象室の活用をすすめる。 イ 校内における子どもの作品の常設展示を充実させる。	(4) ア、イ 教職員用学校教育自己診断アンケート「教職員は、児童生徒の豊かな情操を育む教育活動を実施している。」の項目について肯定的回答率を <u>80%以上</u> にする。[新規]	

<p>3 保護者・地域・関係諸機関との連携</p>	<p>(1) 保護者のニーズに沿った PTA 活動の充実</p> <p>(2) 近隣諸学校のニーズに応える地域支援の充実</p> <p>(3) 外部専門家や福祉等関係諸機関との有効で迅速な連携</p>	<p>(1) ア R3に引き続き PTA 座談会を年間 2 回開催する。 イ PTA 主催親子夏まつり（あるいはそれに代わるイベント等）を開催する。</p> <p>(2) リーディング・スタッフを中心にニーズを把握し、近隣校において支援教育に関する教職員研修を年 1 校以上、出前授業を計 3 校で実施する。</p> <p>(3) 福祉医療人材活用につなぐ意識がまだ低いので、R3 に引き続き「校内支援シート」を活用してニーズを掘り起こす。</p>	<p>(1) ア、イ 保護者用学校教育自己診断アンケート「学校は PTA 活動に積極的に取り組んでいる。」の項目 <u>75%以上をめざす。[R3 70.1%]</u> 教職員用学校教育自己診断アンケート「教職員は PTA 活動に参加している。」の項目で「よくあてはまる」の回答率 65%以上をめざす。 [R3 56%]</p> <p>(2) 近隣校における<u>教職員研修を年 1 校以上、出前授業を計 3 校で実施する。</u></p> <p>(3) 福祉医療人材活用を <u>20 件以上実施する。</u> [R3 OT 6 件/ST 4 件/PT 7 件 計 17 件]</p>	
<p>4 「いきいきと働ける」教職員のチーム力向上</p>	<p>(1) 「45 分会議」の徹底、グループウェア活用による業務改善</p> <p>(2) デジタル教材の共有、活用</p> <p>(3) 教職員の業務分担状況の検証と改善</p>	<p>(1) 会議の時間、案件整理、資料の事前配付、提案方法について各会議のチーフにより管理し、グループウェアの活用※も導入しつつ効率化を図る（資料の閲覧でほぼ完結し、集合する必要のない場合等）。※活用方法について必要に応じ担当首席及び文化情報部より発信する。毎日朝夕 2 回以上メールをチェックする習慣をつける。</p> <p>(2) R3 に支援研究部で集約した教材を活用する。教材の充実により、業務の効率化を図る。</p> <p>(3) 年度初めに、年間を通じた自己の業務の見直し（分掌・学部・学年等）を記入するシートを作成し、目標設定面談時に提出、管理職より助言を行う。負担の多い教員については 1 学期終了後、各所属チーフにフィードバックし、業務分担の見直しを行う。</p>	<p>(1) 会議記録に終了時間を記載し意識を高め、年度末に全教職員でデータを共有する。次年度に向け、各会議において改善点を検討する。</p> <p>(2) <u>教材の集約数を 80 以上とする。</u> [R3 約 60]</p> <p>(3) <u>ストレスチェックの総合健康リスク 102 以下をめざす。[R3 109]</u></p>	